

# 「保険で良い歯科医療」めざす 噛める幸せを考える市民フォーラム開催

全国連絡会



いつまでもおいしく食べるための講演に熱心に聴きいる参加者 7月5日・新宿

患者と歯科医療担当者が  
共同して運動をすすめてい

る。保険で良い歯科医療を  
全国連絡会は、七月五日に  
東京新宿の新宿農協会館で  
「噛める幸せを考える市民  
フォーラムⅡ」と題した集  
いを開催、一般市民も含め  
て八十人を超える参加者が  
あった。

第一部では、いわき食介  
護研究会代表の市川文裕歯  
科医師が「いつまでもおい  
しく食べるために、楽しい  
食介護へのご招待」と題  
した講演を行った。講演後  
の質疑では参加者から「母  
親を介護しているが、口腔  
のケアはどのような具体的  
な方法で行えばよいのか、  
また、毎食後がよいのか、

薬の使用は？」などの質問  
が寄せられた。

第二部の「噛める幸せを  
考える」と題したシンポジ  
ウムでは、婦人の立場から  
戸村つね・新日本婦人の会  
千葉県副会長、高齢者の立  
場から麻蒔美佐子・北医療  
生協非常勤理事、日比野利  
枝・生協歯みがきセミプロ  
連絡会、歯科医療担当者か  
ら矢野正明「保険で良い入  
れ歯を」東京連絡会世話人  
の四人のシンポジストの報  
告をもとに歯科医療への不  
満や要望、歯科医師への注  
文などを患者の立場と歯科  
医師の立場からそれぞれ出  
し合い、討論と交流が行わ  
れた。

参加した市民からは「八  
十歳も間近の自分にとって  
食事を大切に考えて今日か  
ら明るい気分で張り合いの  
ある生活をとの意欲が湧い  
てきた」本当に老後になつ  
て噛む幸せが味わえなくて  
悲しい思いをしていました  
が、勇気を出してチャレン  
ジします」などの声があつ  
た、歯科医療関係者からは  
「高齢社会において、歯科  
の社会的地位の低さの現実  
と必要性の高さを感じた」  
また、「ネットワークを強化  
する必要性を痛感した。次  
回は是非、医科、歯科合同  
で行うと、より良い介護・  
医療が出来るのではない  
か」「在宅診療における口腔  
ケアの意味、役割の重要性  
がより明確になった」など  
の意見が寄せられた。

同時に行われた歯科医師  
による「お口の何でも相談」  
も好評で、限られた時間の  
中で十人以上の相談にこた  
えた。